家計簿クラブ通信

発行：FP円縁

第27号 2015年 7月

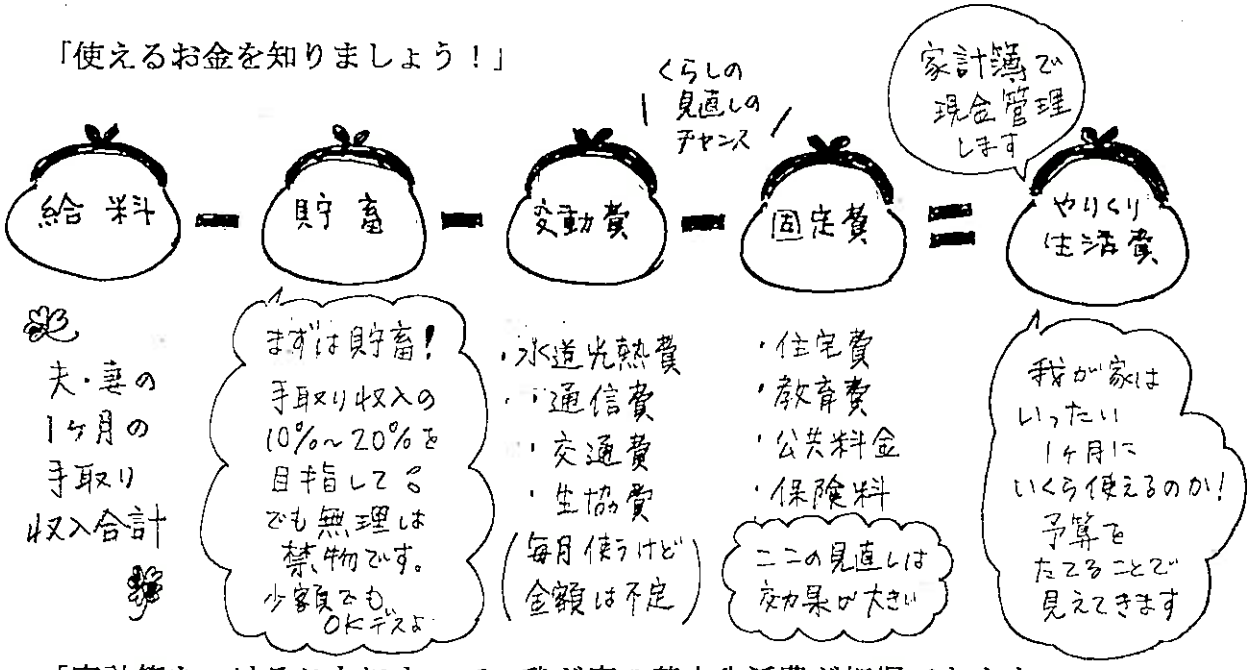
＜家計簿のイロハ＞

家計簿クラブに参加される方の動機として「家計簿をつけたい」という声がほとんどです。家計の管理の一歩は家計簿をつけることとわかってはいるのですが、なかなか続かないのが現状です。

「では、なぜ家計簿をつけるのでしょうか？」

毎日の出費を把握するため、毎月の家計が赤字にならないように管理するためなど様々な理由があると思います。社会状況が厳しくなる今日、家計の収支状況を把握しておくことの重要性は皆さんが痛感しているのではないでしょうか。サークルで将来にかかるお金について学習すると、備えることの大切さや、家計管理のために家計簿をつけることの必要性も感じると思います。

「使えるお金を知りましょう！」



「家計簿をつけることによって、我が家の基本生活費が把握できます。」

毎日のお金の出入りを記入することが、1か月の記録につながり、これを1年続けると我が家の1年間の収支決算が出来上がります。この1年間の記録は、我が家がどれくらいのお金で生活しているのか把握でき、また、将来子どもの教育費がかかる頃にどれぐらいのお金を支出できるかなど、将来を考える材料にもなります。

＜家計簿のススメ＞

貯蓄を意識して取り組みましょう。「貯蓄なんて無理、残ったら貯蓄しよう」ではなかなか貯まりません。たとえ、1000円からでも大丈夫、時間が味方してくれます。まずは先取り貯蓄です。

買い物の記録をしましょう。買い物をした際はレシートをもらう、レシートのないものに関してはメモをしておくなど習慣化しましょう。一つひとつは少額でも、まとまると大きな金額になる使途不明金を減らしていくことがポイントです。そして、不必要なものを買っていないかなど家計簿でチェック！

「家計簿をつけることは、我が家の家計を記録すること」

お金は大事ですが、お金に振り回されない生き方をするために家計簿は必要だということです。

「家計簿クラブでは」

①一人ではなかなか持続できない家計簿を、サークルの仲間で励ましあって楽しくつけていきます。

②めまぐるしく変化する社会状況の中で生活設計に必要な情報を正確に得るために、定期的な学習会を開催し、将来の出費に備えます。

家計簿クラブ

サークルのわ！

本州の西の端である下関市で、6人のメンバーで活動しています。毎月1回集まり近況を語り合う中から学習会で学んだことを、家庭で活かした事など、お互いに情報交換しています。

メンバー同士での交流もあり、年々それぞれの取り巻く環境は変化していますが、サークルを通してつながり合う仲間がいるのは嬉しいですね。

（やまぐち・砂田　純子さん）

en en便り

末娘が予備校生活をすることになった。わが家のライフプランからすると予想外の出費だ。予備校の入学金が五万円。（これは学校説明会に参加して半額になった金額）学費が年間六十五万五千円。この他にも春季講習・夏期講習・冬期講習など、また別に数十万円必要みたいだ。

さらに、わが家から通える範囲に予備校がないため、家を離れて県外での暮らしになる。女子寮が年間約百十万円（日曜以外朝食・夕食付き）この他にも水道光熱費、昼食代等で毎月最低でも三万円の仕送りが必要かと考えると、娘の夢を叶えてやりたいなんて簡単には言える話ではなかった。

「どうしてもいきたい大学だから、1校しか受験しない。どうせ行かないから滑り止めも受けない。」という娘の潔さに惚れ込み、そんなに強い気持ちがあるなら、きっと受かるんじゃないかと微かに期待していたが、世の中そんなに甘くない。

でも、「大学に入る前にもう一年しっかり基礎学力と自立心を養う！」という娘を前にすると、やっぱり「夢に向かって頑張れ！」という気持ちになってしまう。六十五歳まで元気で働ければなんとかなるさ～

（枝広　由紀）